

セラピスト

第2特集

プロユース&ホームケアにもOK!
ナチュラル・スキンケア粧材の
使い方、選び方

駆け出し&現役セラピスト座談会
スウェディッシュ・マッサージ

第1特集

スパ・セラピスト

はやる! 愛される! 私たちのスパ・スタイル



第1特集

Spa Therapist

スパ・セラピスト

はやる! 愛される! 私たちのスパ・スタイル

スパ施設の増加にともない、スパ・セラピストになりたい人たちが増えてきました。

温浴・水浴を備え、全身へのトリートメントを行うスパ・セラピストたちは、

どのような知識を得て、何に注意し、施術をしているのでしょうか?

セラピストやエステティシャンとの違いはどこにあるのでしょうか?

今回の第1特集では、スパ・セラピストや講師、

オーナーとして活躍する人たちのスパ・スタイルから、

そのヒントを探ります——。

MOON STONE SPA

ST.GREGORY SPA

Healing Resort Azabu

タマンサリ ロイヤルヘリテイジスパ

MIKUインターナショナル

アロマトーク

Day Spa MARIA'S HEART

ruche spa

アンブラグ

余湖美香さん 森友宇子さんの スパ・スタイル

蒲郡の天然温泉「美白泉」を用いたジャグジーに浸かり、
絶景を眺めた後に受ける極上のトリートメント——。

宿泊施設に併設したスパならではの、
セラピストの苦勞や喜びを、
二人の取材から探ります。

取材・文 ● 本誌編集部 写真 ● 石黒ミカコ/天の丸



一目見て決めた 絶景を見渡せるスパ

「こちらに初めて足を踏み入れ夜景を見てすぐに、ここでスパをしよう」と決めました。この解放感と景色。海と空と満月。トリートメントを受けながら見える最高の環境。癒しの時間を過ごしていただけると確信しました」

愛知県の知多半島と渥美半島の中央に位置し、三河湾を望む観光都市、蒲郡。そこから三河湾スカイラインを走ること20分、山の頂にある「銀河伝説煌めく天空の宿天の丸」には、絶景を一望できる「MOON STONE SPA (月長石)」が併設されている。自らセラピストとして活動する傍ら、セラピストの育成やマネージメントも行う余湖美香さんは、遡ること2年ほど前、まだスパがオープンするはるか前にその地を訪れ、冒頭の思いを抱いていた。

煌めく夜空の星と夜景を360度見渡せるロケーション。その中に浮かんだ船をイメージした「天の丸」は、春は鶯がさえずり、夏

は森林浴を楽しめ、秋には紅葉、雪景色の冬には天体観測と、日本の四季を満喫できる県内有数の宿泊施設だ。そこに、水とトリートメントを兼ね備えたスパを作ってから1年半、余湖さんをはじめ4人のスパ・セラピストたちは、日々スパの魅力を伝えている。

余湖さんがセラピストになったのは、およそ6年前。以来、豊橋駅前の自身のサロン「アンモイゼ」を中心に、3軒の店舗でセラピストとして人々を癒し続けている。もう一人のスパ・セラピスト、森友宇子さんは元々、余湖さんのクライアントだったが、余湖さんの熱心なセラピーと人のために尽くす人柄に惹かれ、セラピストを目指すようになる。2年間、余湖さんの元で修業した後、2004年10月のスパ開業に合わせてオープンングスタッフとして配属。気持ちを込めたトリートメントがお客様の評判を呼び、旅館のアンケートには「セラピストの方に、凄く癒されました」と書かれるほどだ。

余湖さんと森さん、キャリアの異なる二人に、スパの魅力とスパ・セラピストとして働く上での注意点を語ってもらうことにする。

スパならではの 知っておくべき知識は膨大

「こちらのカウンセリングでは、食事の時間と飲酒、入浴の有無を必ず聞いています」(余湖さん)

スパを訪れるお客さんは、圧倒的に宿泊客が多い。そのため、この三つの要素が施術に与える影響は少なくない。例えば飲酒をした人は、基本的にはお断わりしているというが、それは温浴とトリートメントによって血流が良くなるという理由からうなずける。それだけでなく、施術後に部屋に戻り飲酒しながら芳香浴をする人のために、アルコールと愛称の悪い精油があることも伝えていくという。

また、「食後の方はお腹を触らないようにしています」(森さん)。「旅館で入浴された直後の方の場合には、スパのジャグジーは温度を下げて足浴だけにしないと、気持ちが悪くなってしまうこともありま

ことは多々あり、温泉の知識を頭に入れた上で普通のサロンよりはるかに多い禁忌事項を理解していなければならぬ。さらに、旅館であるがゆえに客層も幅広く、年配の旅行者が初めてスパを経験するケースも多いそうだ。

「その場合は血圧だけでなく、既往症も必ずお聞きします。血圧の高い方にはジャグジーの時間を調節することもあります」(余湖さん)

スパの一番の特徴である温浴が時にマイナス効果にならないためにも、スパ・セラピストには多くの知識が求められる。その温浴施設を有効利用した豊富なメニューがスパのもう一つの魅力といえるが、それだけ勉強する量と時間も必要となる。例えば余湖さんの場合、アロマセラピーをはじめエステティック、タイ古式マッサージ、アーユルヴェーダ、ストーンセラピーと国内外を問わず積極的に学びに出かけ、今年から臨床心理士になるために大学に通うという。

また、ロングメニューやカップルメニューの際の男性への施術など、スパならではのメニューが客層の幅をさらに広げてくれる。「メニューにも、やはり」がありますから、流行に敏感で向上心のある方がスパ・セラピストに向いているかもしれません」(余湖さん)

「あんなに勉強して、あんなに働いてきたこともあって、「あのメニューはないんですか？」と言われたいような努力も必要となるのだろう。

旅館のスタッフとの コミュニケーションも欠かせない

セラピストに必要な不可欠な接客マナーも、宿泊施設に併設したスパの場合、より一層求められる。なぜならスパが旅館の中にある以上、スパのイメージはすなわち、旅館のイメージになってしまいからだ。そのため、接客態度や言葉遣いだけでなく、幅広い教養も身につけておかなければならないのだという。

「個室でお客様とマンツーマンで会話をするわけですから、とにかくいろいろな話題が出ます。よく聞かれるのが観光名所。お客様が行

スパに来るお客様は満足して当たり前、
私たちは100%以上のことを求められていると思います





知っておきたいスパの魅力 「月のリズムがキレイにしてくれる オリジナルメニュー」

1日は24時間で、これは太陽のリズム。ところが人間は、体内時計によるリズムが25時間前後で機能しており、月のリズムに近い。さらに、月の新月から新月までのリズムが女性の身体のリズムとほぼ同じであるため、「MOON STONE SPA」では月のリズムに合わせたトリートメントメニューを組んでいる。

例えば、新月の時期（5月27日、6月26日など）は、一番ゆったり過ごしてほしい時期であるため、日常とかけ離れたのんびりしたバスタイムとトリートメントメニューを構成。また上弦の月の時期（6月4日、7月4日など）は、やる気とパワーに満ちあふれる時期であるため、元気になる精油を利用したトリートメントを提供している。

かかれたら楽しいだろうなあという場所をリサーチしています。それから旅館内の各施設の場所や特徴も必須です」（森さん）

スパ・セラピスト全員で旅館のレストランの料理を食べ、お客様の質問に対応できるようにもしているそうです。

医療施設で働くセラピストが、医師や看護師など、医療スタッフと密に情報交換をしているように、余湖さんたちも旅館のスタッフとの情報交換を欠かさない。例えば仲居さんやフロントの女性にトリートメントを受けてもらい、スパの良さだけでなく準備にかかる時間を把握してもらうことも、予約を取るフロントスタッフにさまざまな理解を促すことに通じる。一つのチームで働く場合には、コミュニケーション不足が原因で、お互いを敬う気持ちにヒビが入ってしまうこともある。そこで必要なのは、「待っているのではなく、自分から出向いてコミュニケーションをとるように心がける（余湖さん）」姿勢だろう。

「スパは旅館の4階にあるんですが、ここに籠もってしまっていてはコミュニケーションはとれませんが、天の丸のホームページにスパ・セラピストのプログを公開しているのですが、4階にパソコンを置いたり携帯から書き込むので

はなく、必ず1階の事務所に行って専務さんのパソコンを使って書くようにしています。そうすれば明日の予約の確認もできるし、旅館のスタッフと仲良くなれますから。洗濯機も4階に置こうと思っただんですが、皆さんがいる場所です。洗濯すること、今度は厨房のスタッフともお話ができるんです」

半袖姿、そしていつも笑顔で「おはようございます」と挨拶する彼女たち。それを見ているスタッフたちは、「スパの子たちは元気だねー」と口々に言い、その場が笑いに包まれる。コミュニケーションを取るだけでなく、そこで得た耳寄りな情報が、今度はスパにやってくるお客のための情報へと変わっていく。そこには紛れもなく好循環の輪が形成されていた。

一度きりの出会いに 最高のおもてなしを

旅館に併設したスパであるがゆえに、客層だけでなく利用目的もさまざま。例えば記念日の贈り物として恋人や妻に癒しの一時をプレゼントする男性もいれば、ホワイトデーに特別な人へ贈り物をする人もいる。余湖さんは、街のサロンと宿泊施設内のスパとの違いを次のように感じながら、いつも施術に臨んでいる。



余湖美香(よごみか)さん
2000年にアロマセラピストになった後、二つの旅館内のスパ、豊橋市内のサロン「アンモイゼ」にスタッフを派遣しトリートメントを行う。スパ導入に当たっては、天の丸の支配人とともに「愛知、三重、岐阜、静岡でトップレベルの、そしてここでしか味わえないスパを作ろう!」と目標を掲げる。

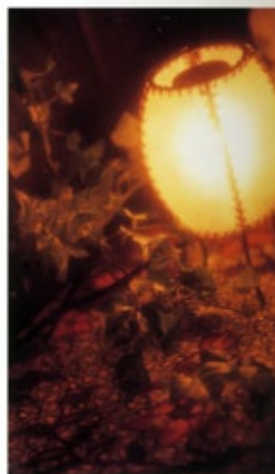


森友字子(もり ゆうこ)さん
2002年より余湖さんに師事し、セラピストの勉強を積み、2003年のスパオープンと同時にスパ・セラピストとして勤務。技術だけでなく思いやりのある、心を込めたトリートメントが人気。

知っておきたいスパとスパセラピーの魅力 「男性へのトリートメントで 手が敏感に」

スパであるがゆえに、男性へのトリートメントを行うケースも増えてくる。「MOON STONE SPA」では、カップルによる同時施術に限り男性も受け付けているが、そこでの注意点や得られるものは多いという。「恥ずかしがる方が多いので、照明を暗めに設定し、肌もあまり出さないようにし、うつぶせの時間を長めにしています」(余湖さん)「オイルの好き嫌いははっきりしている方が多いようです。柑橘系など、男性が好む精油を最初に出すようにしています」(森さん)。

また、男性のほうが筋肉と筋内の境目がはっきり分かるため、解剖生理学的に理解しやすく、その後、女性の体に触れると、手の感覚が研ぎ澄まされていることを実感できるようだ。



「皆さん、旅行やスパに行くために一生懸命お仕事をされていると思うんです。きっと何か月も前から計画して、思い入れを込めて旅に出る人もいると思います。だからお客様は満足して当たり前、私たちは100%以上のことを求められていると思っています。では、プラス20%はどうしたらいいか。そこは気持ちや演出で応えようと心がけています」

森さんは、あるお客さんとの思い出を話してくれた。

「自分に置き換えてみれば分かりますが、旅行に行く時は、かなり前から楽しみです。そうした気持ちは凄く分かりますし、旅行って本当に特別な時間だと思うので、部屋の雰囲気、トリートメント、接客態度など、すべてにおいて、いつも向上するよう努力していきたいと思っています。お客様にはぜひ、思い出の時を過ごしていただきたいんです。『いろいろなサロンに行きましたが、今まで一番良かったです』と言われた時には鳥肌が立ちました」

取材をして一つ分かったことがある。それは遠方からの旅行者が多い宿泊施設のスパの場合、街のサロンと比較すると、圧倒的にリピーターの数が少ないということだ。そのため、スパ・セラピストの場合、一度きりの出会いとなる確率も高くなる。そこで必要なことは、技術はもちろんのこと、ワンランク上のおもてなしや目を見張る環境などによる演出だということだ。それは、街のサロンとは異なるお客様のテンションに応えるための、プロフェッショナルな技術といえる。そして「MOON STONE SPA」には、そうした要素がたくさん詰まっている。

「もう、二度とお会いできないかもしれないわけではないわけですから、ホームケアアドバイスの内容も、次の予約を取ってくださる街のサロンのお客様のケースとは全然、変わってくるんです」

初めて受けられるお客さまがよく、おっしゃるのは、街のエステは何か買わされたりしそうで怖いけど、旅館やホテルの中にあるスパならば安心感がある、ということでした。私たちの交換日記に「今日のお客様は、初めて受けられたそうです。これからも大好きになってもらえるように、一生懸命やりました」と書いてあったことがありました。これをきっかけにして、街のサロンやエステ、スパも受けにいってくださるかもしれませんから、とても重要な仕事だと思っています」(余湖さん)

リゾートスパやホテルスパには、大切に、そしてとても素敵な役割が備わっている。